

# 会議録

会議名	平成28年度 第5回 八王子市高齢者あんしん相談センター運営部会
日時	平成29年2月3日(金) 午前9時30分～11時30分
場所	八王子市役所 本庁舎事務棟7階702会議室
出席委員	和氣純子会長、山内英史副会長、小池公江委員、日高絢子委員、村上正人委員、大久保孝彦委員、桑野洋子委員、田中泰慶委員、小新井妙子委員、吉澤努委員
出席臨時委員	大井みゆき委員、尾寄敏夫委員、堀内進一委員、山田純一委員、秋山純委員、佐々木良委員 片山正文委員
オブザーバー	(高齢者あんしん相談センター南大沢) 森島センター長、(高齢者あんしん相談センターめじろ) 中村センター長
関連部署説明員	高齢者いきいき課長 元木、介護保険課長 横溝、地域医療政策課長 高橋
説明者	社会福祉協議会 大島
事務局	高齢者福祉課長 溝部、高齢者福祉課主査 半田・辻野、高齢者福祉課主事 渡邊
欠席者	平川博之委員
公開・非公開の別	「公開」
傍聴人の数	「なし」
次第	1 開会 2 報告 (1) 平成28年度高齢者あんしん相談センター運営評価結果について (2) 平成29年度八王子市包括的支援事業等実施方針・細目及び事業計画について 3 議題 (1) 平成28年度第2回地域ケア推進会議 (2) 平成28年度第2回生活支援体制整備推進協議会 4 その他事務連絡 5 閉会
配付資料名	資料 次第 1-1 平成28年度高齢者あんしん相談センター運営評価結果 2-1 平成29年度八王子市包括的支援事業等実施方針 2-2 包括的支援事業等実施方針とその細目、補足事項について 2-3 平成29年度高齢者あんしん相談センター事業計画書 3 平成28年度第2回地域ケア推進会議 3-2 地域ケア会議等の今後のスケジュール 参考 八王子市地域ケア会議実施報告書(個票) 4 平成28年度第2回生活支援体制整備推進協議会 5 平成29年度高齢者あんしん相談センター運営部会開催日程及び内容案 意見書

## 1 開会

- 【高齢者福祉課主査】 平成28年度第5回高齢者あんしん相談センター運営部会を開催する。
- 【高齢者福祉課主査】 本日の高齢者あんしん相談センターオブザーバー参加は、高齢者あんしん相談センター南大沢の森島センター長、センターめじろの中村センター長になる。配布資料の確認。本部会は原則公開とする。今回についても公開としてよろしいか。
- 【全 員】 異議なし。
- 【高齢者福祉課主査】 報告に入る。ここからの進行は、本部会運営要綱第4条に基づき、会長にお願いすることになる。和氣会長、よろしくお願いする。

## 2 報告

【報告(1)：平成28年度高齢者あんしん相談センター運営評価結果について】

- 【和氣会長】 次第に沿って進める。【報告(1)：平成28年度高齢者あんしん相談センター運営評価結果】について事務局から説明する。
- 【高齢者福祉課課長】 年末に平成28年度高齢者あんしん相談センターの運営評価を事務局で行った。その結果、努力、工夫が見られる点、また助言、改善を有する点2点を伝え法人から回答があったものを加えた。個別には量が多いので省略するが、移転した旭町、高尾、大横と新しく出来た3包括については市民周知が必要になる、法人として周知に力を入れていきたいとのこと。介護人材不足という事で職員の確保、職員の質の向上、職場の改善が必要であり、法人としても力をいれていく回答があった。資料1-2参照。自己評価シートをまとめたもの、概ね3だが人員配置の適正化については統一している。評価の3は1ヶ月も欠員なし、評価の2は年度を通し1~3ヶ月、評価の1は年間4か月以上の欠員発生している評価となる。1の包括は中野、左入、南大沢以上。
- 【和氣会長】 内容について意見・質問等よろしいか
- 【田中委員】 人員配置適正化という事だが、現在の南大沢の欠員状況は。
- 【高齢者福祉課主査】 現在も1名欠員している。
- 【田中委員】 市として何らかの支援はないのか。法人任せか。
- 【高齢者福祉課主査】 市の広報等で募集している。
- 【田中委員】 欠員が続いている事は、何らかの問題があるのか。
- 【和氣会長】 3センター共通している職種なのか。南大沢は社会福祉士、他はどの職種か。
- 【高齢者福祉課課長】 中野は主任ケアマネと看護師。
- 【田中委員】 中野はセンター長がいらないの。運営に関わる問題である。
- 【高齢者福祉課課長】 南大沢は職種は足りているが、全体の人数が不足。
- 【和氣会長】 市の広報に出しているとのことだが、場所を特定しているのか。また問い合わせはあるのか。
- 【高齢者福祉課主査】 包括支援センターどこそことし募集している。問い合わせ先があるが、直接、法人に問い合わせる形。募集の人数に対して応募は少ないと感じている。
- 【和氣会長】 南大沢のセンター長に伺う。

- 【南大沢センター長】 職種は揃っている。独自で募集すると、問い合わせはあるが包括での職種上、経験があるか、適切に仕事ができるかが重要。人材会社に紹介を依頼している。今日時点で何人が面接し、決まる方向性。保健師、医療系もいないが、ただ主マネを持っている人が少ない。居宅からなかなか離れない。主マネの募集は大変。こちらから直接アプローチしないとなかなか集まらない状況。
- 【和氣会長】 経験豊富な委員から他に意見は。
- 【大久保委員】 約半数の包括で人員が不足している。専門職不足が問題になっている。たとえば、人員配置で質問したいが、人員配置を1つのテーマとし、センター長会等でやりとりはあるか。
- 【高齢者福祉課課長】 そのようなテーマでやったことはない。
- 【大久保委員】 各包括で共有されるべき課題。
- 【村上委員】 国が決めている3職種が果たして本当に必要なのか。国が基準を決め、果たして主マネとケアマネの違いがどこにあるのか。研修を受けただけの違い。中核市になった本市が国の言いなりではなく八王子は独自でケアマネでいいとか、資格にこだわらなくてある程度スキルがあればよいとかハードルをさげてもよいのでは。今後、包括が増え人員が必要になってくるのに、ハードルをあげたまま10年も前に作られた制度に黙っていてもよいのでは。結構資格なくてもやる気と経験がある人はいる。人材の活用も必要なのではないか。
- 【大井委員】 人員確保に苦慮している、職種については、現在は社会福祉士の募集をしている。医療職、主マネの応募はない。医療法人なので法人内で医療職は確保しようと努力している、主マネについては応募がないので法人内で育成しているが、市の推薦がないと研修には出られない、市の推薦枠はどのようになっているのか。特に八王子は高いハードルを設けている。民間のケアマネも主マネになるには本当に頑張らないと推薦枠がない。市全体の主マネがどれ程いるのか。  
主マネは事業所の報酬に大きく関わるので、事業所の給料が高いのか、包括に応募がない。サイクルが回らないと包括応募は難しい。人材育成についてはただ雇えばよいというわけではなく、包括に求められていることが多くなっているので知識や経験、又やる気等、人材を取るにあたって熟慮が必要。ただ人が来ればよいわけではない。欠員という事で数字が出ているが、配置基準が包括ごとに違う、片倉は6名という配置で本市の中で小さな包括だ。中野は配置人員が多い。高齢者人口で違いはあるが、人員基準を見直す必要がある。中野は8人。片倉と2人違う。議論が必要なのかなと感じた。
- 【栗野委員】 主マネとしての立場だが、更新をしないという主マネもいる中で、包括の主マネ募集も厳しい状況である。仕事量もあるので、仕事の内容を考えそこも踏まえながら検討しないといけない。委員が言われたケアマネがいきなり包括に入ってただ主マネ研修を受けたから力を発揮できるわけではない。人員要件はなりたない。
- 【村上委員】 ケアマネを優先枠で推薦し、半年研修を受ければ主マネになれるのか。
- 【栗野委員】 そんなに期間はかからない。
- 【村上委員】 市が邪魔しているのでは。
- 【和氣会長】 市が定めている基準が他市に比べ厳しいのか。

- 【介護保険課長】 ケアマネを引っ張っていく立場。事業所の加算のためだけの主マネではない。どういう気持ちで主マネになるのか、面接を行い話の中で事業所の加算のためと見受けられる。
- 【村上委員】 採用されたケアマネが、資格をとる条件で優先し主任になればいいのではない。自分もケアマネをもっているが、主マネと違いがあるのか疑問。
- 【介護保険課長】 包括の主マネの会を作り、気持ちの醸成をしていかななくてはいけない。
- 【村上委員】 包括に就職すれば、主マネになれる道筋ができる。
- 【和氣会長】 包括での実践経験があれば優先的に研修を受けられるという事を言いたい。
- 【介護保険課長】 検討する。
- 【栗野委員】 東京都から主マネの役割も言われており、ケアマネと変わらないといわれるところまる。
- 【介護保険課長】 立場は、重要と考えている。
- 【大久保委員】 市が定めた基準があり、さまざまな職種、医療や介護の世界でアウト感が求められている。去年の介護保険部会で、包括職員の個々の資質が問われる時代になった。今は人を確保できるか、3職種を揃えることができるかどうかではなく、個々の資質が問われる。
- 【佐々木委員】 人員が欠けてしまう理由は。
- 【大井センター長】 個別の事情。
- 【和氣会長】 心身の疲れもあるでしょうし、給与が安いので他に移ってしまうと聞いている。医療系の職種は包括より病院の方が待遇面、給料面で移ると聞いた。
- 【佐々木委員】 給与的な面が、表立ってしまうと永遠に回らない。リハビリテーション科でも基準があり、10人を超えると基準が変わる。診療報酬が倍以上変わるので死活問題である。法人内で産休、育休がでたら常に余剰人員を抱えており対応しているデイケア、ディーサービスに欠員が出たら病院内から回すとかそういう運用をどこもしている、8人6人とか人員が決まっています家庭の事情はやむをえないが、給料的に抜けていく状況だと常時埋められない。
- 【和氣会長】 多くの法人が法人内で埋める努力しているが、地理的、給与的なのか、応募がない包括もある。法人に特色があるので全ての法人がやりくりできるわけではない。補充が難しい。
- 【佐々木委員】 余剰人員を確保するのは難しいのか。この中で役割を担うのはだめなのか。
- 【和氣委員】 委託費に上乗せし余剰人員を配置している法人はある、基準以上に配置されている。法人の考え方というのは、従来の委員会でも法人側に対し本当にやる気があるか、ないのか問いただした。協議会の意見や市からの指導で法人に理解して頂くという取り組みを行ってきたが、中々解決されない。先ほど大井委員から、人員配置の話があったが、各包括横並びで同じ配置の時代があり、高齢者人口も違い、一人暮らし高齢者が多い地域や、ニーズが高い長房、中野にウエイトをかけ人員配置を決めた経緯がある。
- 【大井センター長】 その話は承知の上で、配置基準が多くなっているが上に、欠員になっており運営が回っていないのかは検証していないか。
- 【和氣会長】 していない。

- 【大井委員】 実際に運営できているか議論されていない。基準を決めたのは承知したうえで運営的にどうなのか検証しないとウエイトが、いないことで、何が難しいのか考えていくべき。
- 【和氣会長】 基準だけ決めて検証してないのか。
- 【高齢者福祉課長】 欠員状態が長いのが中野。センター長がいなく、事務方が兼務。現場職員も大変と聞いている。市民サービスが出来ているか図ることが難しい状態。各方面から聞くとやってもらいたいとばらばら聞こえてくる。
- 【田中委員】 ケア会議集計一覧表には中野が出ていない。見る限りがそう感じる。そのことが影響しているのではないか。
- 【高齢者福祉課長】 包括の受託法人連絡会が2月22日にある。その場で人員についての意見交換、議論をしたいと考えている。中核市になりと話があったが、最低人員基準については国の従うべき基準という事で中核市とはいえ独自の動きはできない。最低基準の3職種はそろえる。今までの運協の議論の中で最低人員5名は必要となった。第7期計画の中で人員基準を検証したいと思う。夏以降に会議に提案し整備したい。7期計画では包括の新設による分割がある。中野は職員人数が減るわけなのでその事情もあるのでないか、再度議論したい。
- 【村上委員】 余剰配置は難しい。基幹型が補充する機関を派遣すればよいのでは。常に基幹型が市の中にあるというので看護師や主マネを補充し、人員が補充できれば引き上げると基幹形が担うべきではないか。
- 【高齢者福祉課長】 機能を持てればよいと思いが、基幹形も余剰を抱えているわけではない。
- 【村上委員】 法人に市が委託して基幹形も市。法人や包括を責めるのではなく自分たちで委託し法人が補充できない。基幹型としても人員を補充できない。果たして機能をはたしているのか。
- 【高齢者福祉課長】 委託事業なので、できる事業所をお願いするスタンス。
- 【村上委員】 出来ているか。
- 【高齢者福祉課長】 出来ていない。受託法人の業績を評価するのかつながる。この状態が何年も続いていくのか。どうするのか。
- 【村上委員】 何年も南大沢は続いている。10年以上も続いている。全スタートが過去3回ある。困難ケースが宙に浮く。地元も居宅もなんとかリカバリーして十数年やってきた経緯があるにも拘わらずまた1。これを委託している市の責任はいかなものか。基幹型に人を入れて補充するぐらいの配慮があってもいいのではないか。
- 【佐々木委員】 元八王子を受託している法人だが努力は感じている。窓を挟んで見えている。病棟配置していた看護師を持って行って働いているが、病院が募集しても来ないものは来ない。難しい問題である。

- 【小新井委員】 包括の審査部会に出ている。審査に来られる法人は意欲的。欠員が生じるなんて予想もできない。センター長が平成28年8月から不在と書いているなんて市民の立場としてはありえない。自己評価を読んだが包括によってはとてもバラツキがある。片倉のように一生懸命取り組んでいる包括もあれば、なにしているのだろうともおもう。問題があるのかと感じる。市民の立場ではそこに住んだことが不運を感じる。数値を表にまとめるのは分かるが、レベルアップしていくのも市の指導力である、市民の立場としては、きちっと取り組んでほしい。
- 【和氣会長】 人員基準については、保健師と社会福祉士についても確保するのに困難な地域があり、いつの間にか国の文章に「それに準ずるもの」という一文があった。地方には全くいなく専門職を養成している立場からすれば準ずるものは困るが、一方でそういう状況がある。国の方の市民会専門員には準ずるものはないが、その2つの職種については準ずるものと実態に即した現実問題として変更がなされている。本市が充足できないのは腑に落ちないのでご検討していただき、特に、包括で働いているかたが大変、法人の待遇面、センター長会で議論してほしい。
- 【高齢者福祉課長】 法人連絡会の中で議論したい。法人理事にも来てもらうので話をしたい。
- 【秋山委員】 大事な話をされたと感じる。地域包括の大切さと色々な役割を担っていき、ますます負担も増えていく。人員問題が出てくると感じた。集計表でオール3をつけているところもある。見えない部分もある。夜間や緊急時の整備では、点数的にはオール3で書かれている。基本的にはセンター長や職員の携帯電話で夜間、休日対応している、めじろでは半年間で300件対応している、1日1本一時対応、二次対応色々あると思いが、めじろの問題ではない。市全体で数千件広がってくる状況を踏まえて、なんでできているのかは個人の努力とマンパワーでできている。地域包括の仕事の在り方、実態を、横の連絡会等との交流を持ち1法人だけの努力だけではいなくなっていると感じた。
- 【高齢者福祉課長】 夜間対応は悩ましい。法人には大変苦勞を掛ける。24時間電話を受けられる体制をるようにと対応を願った、300件とあるが実態的な中身を精査しながら考えていきたい。
- 【尾崎委員】 自己評価の仕組みは分からないが、人員配置では長沼2だが、自己評価シート上は3になっていた。市側で精査し4か月以上空き2に変更したとわかった。それ以外のところで、2が並んでいる所、3が並んでいる所ある。中身を見ると、話があったが、夜間体制や個人情報保護の関係で民間会社に委託しているところと、そうでないところも同じく3になっていた、包括もどういう事をやれば3または2になるのか判断基準が不明確と感じた。同じ内容で2または3基準の詳細化が必要なのではと感じた。
- 【高齢者福祉課課長】 現段階では自己評価に変わったのは平成27年度から。今後包括センターの客観的な評価をどうするのか国でも議論している、その辺りも考慮する。
- 【和氣会長】 以前は委員が評価していたのを自己評価に変えて試行期間中、国からも指針があるかもしれない。

- 【小新井委員】 24時間連絡では旭町は民間会社と契約し、緊急時はセンター長へ連絡となっている。緊急時とは民間会社が判断するという事なのか。
- 【高齢者福祉課主査】 自己評価のヒアリングの際聞いた。民間会社が緊急かどうか判断しないとなっている。一度はセンター長に連絡が入り緊急の判断することになっている。
- 【和氣会長】 民間会社をいれる意味が。
- 【高齢者福祉課主査】 あくまでも電話対応を入れている。携帯電話に転送しているのと変わらない。機械警備をいれている関係でワンクッションいれている。
- 【小新井委員】 緊急時にはセンター長へ連絡が入るとなっているが間違いですね。
- 【和氣会長】 民間会社にマニュアルを作成している包括もあったのでそれと一緒に思った。
- 【和氣会長】 ほかに質問等あるか。【報告(1)：平成28年度高齢者あんしん相談センター運営評価結果】については以上。
- 【報告(2)：平成29年度八王子市包括的支援事業等実施方針・細目及び事業計画について】
- 【和氣会長】 【報告(2)：平成29年度八王子市包括的支援事業等実施方針・細目及び事業計画について】事務局より説明する。
- 【高齢者福祉課長】 前回本部会中で概要を説明した内容。その後包括側とも話し、概ね提示した内容で落ち着いた。結果大きく変わる部分は、資料2-1(イ)の部分チェックリストの使用については、新総合事業を去年3月から開始したが、チェックリストは9月から使う。基本チェックリストについて触れる必要があるため、本日配布した資料を参照。要支援1・2の方は、通所、訪問そののみ使用。簡易な形で、更新の方のみ、かつ本人が希望する場合のみ使用していく。
- 訪問看護、福祉用具が使えなくなってしまう弊害もあり。実施方針の細かい説明として細目・補足事項、文言的な整理をした。
- 2-1、2-2、2-3市の方針、細目に基づき包括で平成29年度の事業計画を立てる。左に実施方針記載それに伴い各包括が計画を立てるといった形である。
- 【和氣会長】 内容について意見・質問等よろしいか。
- 【尾崎委員】 資料2-3の裏面、認知症施策の推進の項目があり、認知症初期集中支援事業に協力するとあるが、事前送付された評価シートにはない。新たに平成29年度から追加されたということか。
- 【高齢者福祉課主査】 その通り。
- 【和氣会長】 ほかに質問等あるか。【報告(2)：平成29年度八王子市包括的支援事業等実施方針・細目及び事業計画について】については以上。
- 3 議題
- 【議題(1)：平成28年度第2回地域ケア推進会議】
- 【和氣会長】 【議題(1)：平成28年度第2回地域ケア推進会議】について事務局より説明する。
- 【高齢者福祉課長】 地域ケア推進会議という事で、各包括で地域ケア会議、地域個別ケース会議を集約、モニタリングを担っている。大きな考えは各圏域で行われた地域ケア会議の個別課題を整理し地域ケア推進会議に回る。市全域の課題内容を検討したうえで計画に反映させ事業に繋げる役割を果たす。

資料3については、各圏域で行われた個別ケース会議、地域ケア個別会議をテーマごとに整理した。事前に参考で送付した実績報告書である。個票をまとめ平成28年度の当初から10月までに市に報告があがっている内容である。意見、考えを聞きたい。資料3-2今後のスケジュール。本推進会議方向性今後の進め方だが、各圏域に特色があり、一緒くたに結びつけが難しいと判断。第6期計画が平成29年度に終わり、平成30年度からの3か年計画を作る。圏域別の計画、本日だした第6期計画の一部を抜粋。圏域別の特徴、課題、施策は共通する部分はあるが、地域ケア個別会議、個別ケース会議、課題になってくる。平成29年度に入るが、圏域別計画施策に結び付けたい。12月にパブコメするスケジュールで作成したい。これについてのご意見等をうかがいたいのが1点。

第6期計画が終わり、第7期計画を作っていく、当日配付した圏域ごとの課題等を記載した一覧を、圏域別計画の策定に結びつけていきたい。12月にパブリックコメントと記載あるが、やるかどうかは未定。やる場合を想定して進めていきたい。その点も含めて意見いただきたい。

【和気会長】

内容について意見・質問等よろしいか。

【和気会長】

当初、地域ケア推進会議が圏域で議論されているものの中から、市全体として取り組むべき共通的な課題を抽出し施策的にも対応が必要なものを精査し、変わっていないと思うがその中で、それぞれのセンターが取り組んでいることが多様であり、一つのテーマでなく、圏域毎に精査し優先的に取り組むべきことを計画に盛り込めるように圏域毎に計画を立てる方向性で議論していく提案である。当初は見守りネットワークを作ったらどうかと話していたが、市が一律にテーマを決めて作らない方が良いのではないかと判断である。共通だが、やりはじめたばかりということ。

【田中委員】

実施は分からないが、第7期計画はやって頂きたい。市民が参加できる場をいれてほしい。

【和気会長】

計画ではパブコメをやるが、推進会議としてののか。

【田中委員】

第7期計画の事である。

【高齢者いきいき課長】

第7期計画のパブリックコメントは義務である。保険料があるので必ずやる。

【高齢者福祉課長】

推進計画に盛り込まれるのであれば一緒にないか。

【高齢者福祉課長】

別冊で予定している。

【高齢者いきいき課長】

6期圏域の段階では圏域別計画を立てていない。どこがつくる話もなかった。実験的に作り、こういうものの考え方に慣れてもらおうと作った。圏域別の事業を市で実施していない。地域資源など明らかにしてもリンクできていない。地域ケア会議、包括の動きと連携し進捗管理がふさわしいかわからないが、福祉課と切り離し主観をうつした。冊子を作ると使い道が限定し、融通が聞かない。別冊にするとパブリックコメントする必要がなくなってしまった。

【和気会長】

地域ケア推進会議プランみたいなものなのか。

【高齢者いきいき課長】

課題があがって半数以上の地域で共通するとなると広域の課題になるとみなされる、第7期の3年間モデル事業展開しよう圏域の計画の中でもむことを想定。

- 【高年齢福祉課長】 イメージ的には、本冊は市の実施する事業計画がメイン、各圏域で話し合っている中で市がやる部分と支援者やインフォーマル、いろんな主体がある中での日常生活別圏域。市がやるだけではなく色々な地域でできる事を入れるのはいいのかなと。パブリックコメントがそぐうのか考えていきたい。
- 【和氣会長】 自治体でもやっているが介護保険の計画を何度も厚労省のエクセルに入れるので楽だが、ひな形がないのでかなり大変ですがやるということ。インフォーマルな方も入るので何度も会合を開かないといけない。地域によって取り組みの差があるが、市もかなり気合を入れないといけないと思う。大変すばらしい案を初めて聞いた。
- 【尾崎委員】 継続されているものを集約していると思うが、解決したものはないとおもうが、地域別に課題を整理するならば一覧にも解決したものも載せたほうがよいと思う。
- 【高年齢福祉課長】 個票には解決したものも載せているのでそちらを見ていただきたい。
- 【和氣会長】 パブコメも地域の意見を聞かないと意味がないと思うので
- 【大井委員】 市から圏域ごと差があるのでそれぞれのセンターの課題をとということだが、他のセンター見る限りどこのセンターにもあてはまるのではないかと、会議をしていなかっただけで、他で出ている課題は当センターでもあてはまるものがたくさんある。議題の中から出てきた課題がこうですよという報告しかしていない。センターの課題とすり合わせは市がやっていると思ったのでこちらではしていない。見る限りは個別のセンターそれぞれの課題だけではない。集約した中で市全体同じような課題をどう解決していくかを施策に載せられるのか、どれを優先順位で考えるのを本来この会議ではないかと期待した。他のセンターで出た課題は無いかと聞かれると、あると答えると思う。様々な課題を出しているのを集約するのが市であり、意見を取りまとめ何を施策にのせるのか、検討が必要なのか出し方を考えてほしい。私たちが出した紙をそのまま出されても包括もわかっていない。
- 【村上委員】 課題を取り上げるならば、財源は介護か。一般財源か。
- 【高年齢いきいき課長】 それぞれかと。日常生活圏域別の話とごっちゃになったらいけないが、運用については、基本は個別ケースから得られるのは市全体に関わるので過去の日常生活別圏域調査を見て地域区分でだしても差はない。それぞれの課題、計画の話をするのであればモデル的、包括含めその地域で優先した場合、議論としてのミスマッチはないとおもう。
- 【高年齢福祉課長】 地域ケア会議のあり方については平成27年度に法に定められた中で手探り状態でスタートしている、模索しながら進めていく方向。包括でやれること、事務局でやれること、本会議の役割、うまく役割分担していく中で模索中。事務局が本会議で施策展開できる内容にならなかった、段階的に圏域ごとで整理して市全体の政策につなげてとの提案である。

- 【 和 氣 会 長 】 自己負担困難とか市内全域・全国共通の課題。共通課題の提起が難しかった。大井委員が話したとおり、どの問題もどの地域にも発生しうるものでそれを見極め、優先課題を設定し議論をするのが推進会議の役割。福祉課長が話したとおり手探り状態で、包括も地域ケア会議に臨みつつある、市が一方的に限られた今年の取り組みの中からテーマになる議題を一つにまとめ、優先順位をつけていくのではなく、個別の地域での下から挙げつつ多くの地域が課題としているものが見えてくる。と、ともに元木課長が話した計画策定と連動する形になる。
- 【 佐 々 木 委 員 】 金銭管理の支援で成年後見制度を使ってという話だが、当院でも担当している中で3人、知っている人含むと4人いる。地域の特性を出していく会議のトピックスを取り上げる。リハビリ病院に聞けば10件20件はある話。ボトムアップでいくのであれば、取り上げかたを病院にいる相談員にアンケートをとってみればよいのかなとも感じた。
- 【 和 氣 会 長 】 会議は年に何回と限られているので、その時期にあがってきたものだけが議題に挙がるケースがある。日頃から感じている困難ケース、問題事例、検討すべき課題を調査するという事なのでそこから抽出もできる。
- 【 栗 野 委 員 】 包括が地域ケア会議をやっているが、見る限り本当にバラバラ。もう少しこういったものはこれぐらいはというものはないのか。全然載ってないのは問題なのでは。
- 【 高 齢 者 福 祉 課 課 長 】 スタート当初、必要性に応じて地域ケア会議個別ケース会議をやるスタンスであった。会議を開かないで解決するケースもある。その辺りは包括に主体的に考えてもらう自由な形になっている。計画を考えていく中ではある程度共通化していくことは必要かも、より均一な取り組みが期待できる。
- 【 堀 内 委 員 】 バラバラではある、包括が抱えている問題の優先順位の問題ではないか。テーマを拾い優先するか、意見を聞き、いくつかに絞り込んで、ある施設では金銭管理、認知症の問題化もしれないが、捉え方はバラバラ、共通ではあるがケースの重さが違う。
- 【 栗 野 委 員 】 バラバラでも、市で集約し田中委員が言ったように、包括中野はゼロ。その地域ではどうなのか。最低のテーマを作ってほしいという事。
- 【 堀 内 委 員 】 最低このテーマは取り上げてほしいという事。
- 【 和 氣 会 長 】 中野はやっていないのか やってないのは重大な問題であるが。
- 【 小 新 井 委 員 】 終了がないだけなのか。
- 【 高 齢 者 福 祉 課 課 長 】 手元に資料がない。平成27年度を見ると包括ごとに地域ケア会議は開催されている。数の多い少ないはある。
- 【 田 中 委 員 】 圏域ごとに見ると自分が問題だと思っている課題がないとなんだとなってしまう。圏域はこの課題があると知ってもらう必要がある。共通化してしまうとそこがぼけてしまう。情報課題があれば別項目にし、圏域別に作るべきだとおもう。本圏域の地域ケア会議、個別会議の開催、日常のいろんな問題は、どうするとなる。これだけでは不十分。市民は他の圏域は見ないと思う。
- 【 和 氣 会 長 】 危惧は本体から切り離されると不十分である。本体があってはじめて成り立つ。

- 【田中委員】 本体だけだと分厚くてみきれない、
- 【高齢者いきいき課長】 作成の技術で、本体が見られるとなれば全体施策から派生したものは前回載せられなかった作り込んだところで指摘等をいただければ。
- 【和氣会長】 市民に見て頂く全体でカバーできない情報を別冊にまとめれば。バランス、ページの仕方を検討頂きたい。
- 【佐々木委員】 地域ケア会議の集計一覧カテゴリー分けすると、医療介護の連携、金銭管理、災害、情報共有、認知症やネットワークなど8項目にわけられている、取り上げた中で比重が重いかではなく認知症を取り上げたときに具体的に問題ない。比重が高くなった場合、具体的なこの先の枝の議論はあるのか。
- 【高齢者福祉課長】 本体の計画の中で市全域の課題の中で認知症施策重点課題として扱っていく。地域ケア会議でこれだけ上がっていることを考えれば、各圏域で幅広く考える必要がある。
- 【和氣会長】 介護保険以外で議論する場があるのか。枝葉があるのか。
- 【佐々木委員】 認知症の予防をみれば30~40代の脳トレ、認知症の予防をしても仕方ない。同じ市民という視点で見ると、50代などは認知症に興味をもっていない。そういう人たちにどうすればよいか考えるべきだと思う
- 【和氣会長】 案を出す前提として議論する必要がある。事務局案が出ない。本来ここで、今日はフリーで出していただくということか。
- 【高齢者福祉課長】 議論についてはもう少し先と考えている。認知症について各圏域で共通的な課題があっても、現在の施策にカバーできていないときはこうしていると投げかけないと。そこまでの準備はまだできていない。
- 【和氣会長】 若い人向けに認知症サポーター養成講座を行っている包括もある。評価をしつつ発展させていくか。市事務局案を作る計画作成につながる。
- 【大久保委員】 地域ケア推進会議をどう進めていくかが提案だったが、抽出・整理と理解すればよいか。
- 【高齢者福祉課長】 はい。スケジュール提案と、またこの段階での意見をいただきたい。
- 【村上委員】 課題の継続を選んだ場合、その先やっているのか、解決する戦略を考えコストパフォーマンス、費用に見合った効果がでているのか、課題だけ出てやった感をだしてうやむや。費用対効果を議論して考え、だからやらないなど市としての明確を示した方がよいのでは。
- 【高齢者福祉課長】 地域ケア会議の効果的な進め方は手探り状態。地域ケア会議の成果のアウトプットには時間がかかる。仕組みをある程度市で示し、効率的な地域ケア会議を進められればと考えている。地域ケア会議の研修を包括向けにやりたい。内容は村上委員の発言のとおり。
- 【大井委員】 地域ケア会議として2年が経ち手探りしている段階ではない。地域ケア会議は包括だけではなく地域の方を招いている。地域ケア会議はこういう目的でと話している。地域にフィードバックしていく段階に来ている。地域からどうなっているのかと。早急に仕組みを作らないと問題になりかねない。
- 【高齢者福祉課長】 市民にフィードバックするのは、圏域別の計画が一つの成果物になると考えている。計画の位置づけを確認したい。ペーパーで見せる事もできる。

- 【和氣会長】 圏域別計画というのは、作業は誰が。
- 【高齢者福祉課長】 事務局が圏域ごとに行う。
- 【和氣会長】 新たに地域ケア会議を開催しなければいけない。原案を次の会議までに作るのを目標としてもらいたい。
- 【高齢者福祉課長】 はい。
- 【佐々木委員】 認知症を取り上げると個別の事例に対してわかるが、視野を広げて社会的に本市が打ち出してきた認知症対策の中で 10 年前も認知症の患者はいたはず。問題ではなかったはず。どれが一番有効だったのか逆に反響がなかったのかが知りたい。今までのデータの中で調べたりはできるのか。
- 【高齢者福祉課長】 難しいところだが、本市特有の認知症施策をしているわけではなく、国の支援援助プランに基づいている。各施策が認知症サポーター養成講座はあるが養成者数は出るが社会にどれほど浸透し認知症の理解が、どれほど深まったのか捉えにくい。
- 【佐々木委員】 医療だと他の病院だと有効策があった、優位な差があった。それをスタンダードとして取り入れていく形。政策や効果検証してやっていくもの。他市がやっていること、知っているがレポートや報告書がある。集めて八王子が特殊な町ではない。奄美でない限り。似たような地域、似たような特性の町のものを集めて有効なもの集める。PDCAといえば簡単だが、今年はここまでやりました。検証しますよと、やっていけばよいのでは。
- 【高齢者福祉課長】 計画をたてPDCAでまわす。現段階では第 6 期計画のなかで、項目があるので検証する事になる。
- 【和氣会長】 政策の評価は計画策定委員会で検証をやる。
- 【高齢者いきいき課長】 第 6 期計画の検証は計画策定部会でもんだうえて高齢者専門分科会で行う予定。事業の各論、認知症事業、認知症対策の中の一事業がどう進んで、どう改善するのかについてはこのような会議体では示すことができない。重点的なものを取り上げ、掘り下げ発想を広げることになる。評価自体は策定部会になる。
- 【佐々木委員】 地域別に重点課題がちがって社会実験 A は認知症対策を重点、B はネットワークづくりを重点課題において 1 年後の認知症進行具合をみたらよいデータがとれるのでは。
- 【和氣会長】 地域レベルの計画策定、地域の取り組みもスポットライトを浴びていきっていく事になるとおもう。
- 【高齢者いきいき課長】 一例として、地域ケア会議集計一覧を見て包括片倉の取り組みの中で認知症高齢者と小学校の徘徊訓練を見て、他の包括が見たらどうか、どう線をひけばいいか、ヒントをいただければ本体計画で議論していきたい。
- 【和氣会長】 ほかに質問等あるか。【議題(1)：平成 28 年度第 2 回地域ケア推進会議】は以上。
- 【議題(2)：平成 28 年度第 2 回生活支援体制整備推進協議会】
- 【和氣会長】 【議題(2)：平成 28 年度第 2 回生活支援体制整備推進協議会】について事務局より説明する。
- 【高齢者福祉課長】 第 1 層コーディネーター視点 2 生活支援協議体(第一層)の開催について、前回の協議体での意見を受け、12 月からより活動が正しく報告できるよう様式を変更している。

視点3生活支援コーディネーター（第二層）との連携体制構築について、大学との連携事業を1層・2層の連携で支援している。また、生活支援の担い手養成研修の講師をテーマにより分担し開催した。

視点4地域資源の把握は第2層生活支援コーディネーターが作成する月次報告等に基づき現在作成中。

視点5生活支援にかかる人材育成の仕組みの検討では、担い手養成研修の実施に向け、勉強会を立ち上げ、研修を実施していく。

視点6自助・互助による地域の醸成に向けた普及啓発では、地域包括ケアシンポジウムの開催、広報特集号にて地域包括ケアシステムの情報を掲載するなどの普及啓発活動を行った。

【社会福祉協議会】

続いて、第2層の生活支援コーディネーターの活動状況について説明する。

第2層の概要を説明する。まず6圏域の活動だが、資料のとおり広域、広範囲のため、コアにアプローチした。北部については団地における生活課題の調査と地域住民への働きかけの検討、住民とともに互助活動の見守りを住民啓発から取り組む。西部地域は、社会福祉法人などの社会資源との連携に基づく地域支援の検討。西南部については、生活支援ボランティア活動のシステム化に向けた協議を関係団体等と実施。中央部は、消費者被害防止啓発に取り組む。東南部については、多世代でたすきをつなぎましょうというテーマで、高齢者と子供の関わりを片倉台地域の小学校の協力を頂きながら日常的な接点を持つ。東部地域については、社会福祉協議会は5～6年前から住民交流の促進を目的にサロン活動の拡充を行ってきた。

【和氣会長】

内容について意見・質問等よろしいか。

【堀内委員】

成果が上がってよいと思う。2回目の協議体の会議が行われているが、スタートしてから2回、報告を見ると間が空いていることもあって同じような課題が繰り返しがあがりかねない、早く対応しないといけない。包括ケア会議でも、出ていたが、何が問題になっているのか地区でキャッチするにはもう少し回数が多いほうがよいと思う。

【社会福祉協議会】

社協で事業を進めている。年2回、その時に話したことが飛んでしまう期間になる。委託契約の事もあるので、相談しながら数を増やす方向で調整したい。

【和氣会長】

ほかに質問等あるか。【議題(2)：平成28年度第2回生活支援体制整備推進協議会】は以上。

#### 4 その他事務連絡

【和氣会長】

その他事務連絡について事務局より説明する。

【高齢者福祉課主査】

平成29年度については今年度同様5回を予定。推進会議は7月に第1回目を予定。2月14日に地域ケア会議ファシリテーション研修があり、参加の可否は机上に置いておいていただきたい。次回は平成29年度6月16日金曜日第1回運営部会を開催する。開催については別途通知する。

【和氣会長】

その他委員から質問あるか。本日の議題・報告等はすべて終了。議事進行を事務局に戻す。

4 閉会

【高齢者福祉課主査】 本日の会議の中で、言い忘れた点、言い足りなかった点があれば、意見書にて2月10日金曜日までに。以上をもって本日の会議は終了する。

会議録署名人 \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 署名 \_\_\_\_\_